東海久歴

宮内省圖書寮
宮内省圖書寮
宮内省圖書寮
宮内庫

多枕

前坊とゆゑしいふうんの御そなかふおそまし、
をぢ世れそじ名ゆるを坊うねゆひて大うの御
おぼえらはるゆふてうもく世ゆもあるをいとあ
それ名やむとわくおまりかをゆひ世ゆ人をいと
かーうゆおうけの名ゆあのこ取うゆのぎきこさ
せつゆ世ゆ名でこく行うぬとゆきゆ御ゆ世ゆ那る
ゆんゆうゆしのひ名む世ゆわぢゆるまゆゆうおゆ
ーとまてゆゆゆゆいそかうゆるーくころせきゆ

ゑてい きるものうぎちんやきくのぞふ見ふと
のこそびんのゆくらぶしてゆーくそひらぶもが
あとのくおぞしとうきるほどふつひよ所ゆのと
京ふをとぎてやくそうせゑひくゝ六條京極ふ
ゑむきみのひろふおわくふのたくばあはらふ
もいきびせんざいなどんぐんるさ西にうぶくうゑ
ヨくしぶ乃んふろくゝふくるさだくやをゑゑ
うろびんふくばるかくふおしくゝ今ゑうきえ
のをさろにゑむきろふ坊うゝおそまいゝ時その

ようれ大臣ゑむうひぞうふいとふゑくかゝばき
そそゑひしみむゝ見ゝはいそそまゑをゑひる
所んざし濃くびわふゑるふあうひそつきぐ
ふまめや家ふちぎをふかまわどにいときう
ようつくゝぎゑる女をゑむうみきゑひふ
二ふふうぶりゑくたつまるゑふ見きこえさ在
のひつゑ所言のふうしづぎおて月ゑるしゑ
ふるるどふこのふ乃思ッゑ見のひし年ゑ秋で
うゑきふうちのやくあそ父ふふもふかまさ在ゑ

ひぬまぢはるの海よりひまでかゝるふねへなる
はるばるおもやまもいみしくこゝろおぼえんし
ばるき山ゆく人もをこまさせぬれば　まいてほ
ほゝ乃ほんまぢびとのもおまれし　をれぢき
しかゝゆくはきゝにたくさまこゝろおぼしは
ぐるもいとらるもはるかに　年ごろぬるかき御製ばかり
みふまるはるくゝもかきしるひつゝかゝはるとおく
もをもてゝ世ふのるんまのうぢがさしかどが
ぎをはるる道をはんまとれるぬるぢをえをひ

きこえはせぬはぬぞこもをしゝかひあれやいと
きはるき人をはんもはるくはをはのをたのふをんはるも
いとゞしきはんのもよりしふて井ゝれ思まるめ
思をよまりもておはるる月日ふゝくもむるよは
くおがしはるぐくほぢふうちつゞき父おぢさへうせ
はるひぬまいとゞあづまなくはんがゝくのおがも
まもはるぢはるもひとりはんかゝてもをんを
しぎはるまかるもやつゝ世ぢるれる山里ふゆま
かゝまゝもおのづゝはるまへむとおぢしるふもあゞ

世とうえの乃ぬゆくさきうしろえさらかくあの
もしに人ゝにおくれ山やまさをのひくゝそろぐしま
ばうしろ見ぬがどもなるがるふさ見えまうせ
てゐばいふしてこハ人あらしふしおひおのはむ
とさそんといみゝうんぐるに紀ゐろぐしうて
きぐゝしくゝとえおんおがしあもびゝ足ゆづる人
かくてのこしそぐえまんあをのいみしうおを
ほしあ面ゝびつて年月しかきかゝゆくふたるか
ぎりけせ房もかゝどもこゐんぐへのをかゝたか

れるふうをこぐえをまりてをきくまでを
ちるとかくゝ大ふけるさ乃むしふかるとと
なけをどおのづゝ津ふゆをてらんぐそくるる
べるきこうもしかひくゝたるとおかうを
ゐをゝりふしけえ家をえるあふつきてを家
きもあをもを回ゞんうえやしるひむし
のゝとのゝつきせぐおぐ出ゝ海にも姫之乃海
ほ面うもけかのえふたうあとなくゝつくうたう
まりしうかりまをうに世の海るぐさめ

○まきゝ

ふて。はしくるまをのあ御ん[illegible]ていたるを
ひせをまりの琴をしへまゝ弾ひるゞーて。
いそのもいふひるゝびおれしそくむを。
んふふおまれおきて弾へまゝばばゞ女人とも。
こうぢびひいくくしてよろづんふくまゝるのうち
弾りるを内ふと前ふ乃ひるひ日すまさを弾そび。
ひいまふおゞし光しいて。をりくしよ時こゞゞひ。
毎えぞぞをる源氏の君ふも前坊の御息所の
あそ所ゝ弾ゞあ弾ふんを。ををくゝこゞゞひ

ねせよかしねゞのゝ方をひつけーゝばぎふんふくく
よしのる人とけまゞむきまを弾ひーのちり
弾る弾をゞゝ月とゆゝーゝおゞされて一日内ゝり
まかゞのふそゆふをおそーゝををゞゝれ
ゞ。着をそゞゞおしつまぬる御門乃もを法車た
てをそゞ法隠ゝをゝて。ひるいをを弾ふるゞを。こ
ーけしをてえいをのをゞ。本をゝ掛ふてこゞゞ
くえゝゝ日をををひをめやふんふくゞ月ひやら
をものふふそのをゝくとやゝゝをぬほゞゞ掛の祈。れ

風うちぐさ

かぎりなくあるべきものなれども、なのれふ
かぎりなくかぎりなくなつかしきまれし
かぎりなくかぎりなくたのもしきまれし
ものなれども、なのふごとに、ふかく名をう
ばしらせべき。あるべくもなかるべき事なり。
と。ゆみ、とりなほしてまた、ほどのほどをはかる
ほどのほどをはかりそつて、人々やとなりそつて、はしめた
さらぬ、ほどのほどにきさしたるひつぢ、なほ
ほどをと。えらびをしらをおびをもぬぎ出ぬべ
ほどの車よりおりのひ、ふとんをきつ、ひきさ

ばらひらもぬるまひ、なのふれさあるまの
かぎりなくてふれまあるふるひみちふは
よいとかぐやうとづくてゐみふいでゐる人と
なるまばそもふあまばそもなるあちて
さらびいとくしてゆかの見といらいできて思
ばへかけぬほどのほどをはかりそつてなるもいとかなしう
いとからぐきまるにふぶふかんとそ陽さうさし
いづるさるかぎりとそでやきぬぐもまる
ひとけりてほるきあもうけばうふふ思へ

もちはだゝよ踏ゞ思ふへつゝてゐむふぎしのわど
をと今よでえはらんぜさを結ゝざりしうへもわた
ふこみやの居る沢めゝ時い者品を(させ)孫ゝ乃
はるさを思ひんぐるゝらゐの道(るゝ)とゝのまひいで
つ姫えのいふうつゝしうあひいでのひぬんるど
はんぶし濃うも思さ方れど大ゝの居そびひと
こまやうふてかく寄りそえ待ぬを(ば)文のとぶを
ゝそ言取ら玉くよう ふて出のひぬゝくぬをへを
ゝせ移ふはこうろぶしたのそふ出ぶめさ

もむかゝて後ら知りしれせうゝそ毛ぞ文はみ
づうゝをまうで移ひるどゝ出るほぶとふ移づえま
さりのゝせゝを(ゝ)そ(ゝ)ゆゝくゝしくゝ知りふ
よしはるはあをひふいとぶはんのゝこうまりでごしご
ろよ知ゝふ思ひやを思つきこえでるぬるとさへ今し
ゝぞ知ぶされるを思ゝ出ゝ紀をわざわざと移
どうちつでさを(ゝ)ぞゝ伊みゆも書しきぞ文しきゆ
をうもまぶ思ゆゝふはゝを(ゝ)移るはんぶしのわど
ゝれしく知ぶゝる知ゝ拾ゝかうゝふ紀はんのうち

そひぬるとぶらひこころづきなくこうるおぼさ
もてぶらへてもをさしくれかきふいよしぶんいとも
て御せうそこうもちきりこゑみのおどおとも
まねりあひつまをやうかるけるかふもんうをけるうま
つるおとふと二年ばかりふもかるぬゑばせゑのぶんう
もさうそいへやりくらるべ見ひきこゑもあひつ
いときうとげふいあべたうふしあゑだうハる
さびなつうつあひあひあはまづひうの系
もいひきびなまえうう御よかどのてふきうこん系

ひうてうるるべ行へるるはまゑくんのふうといるまべ
くうもおきかべくおべきれつたうかきおるまふつけて
とあそれとぶんうおりぬべきそうるゑもさびんふうきさ
まをえくきくおへべ女兵ちかつうかうんるまも
いとべいるくおべうもて人ばそれ御くくきさかう
ぬかどふてやうかれむおべしうつる御んうばうふゆふ
ぐべうとのべぐりんも年かへりて者ふ風ふも人の
御んううもうそけがくうもかきのうまうゆく人乃
ふかどをおべうてふもいとかべをかくいとはうそえ

ちひてもきこえおもむきをおくびょうさかりけるふちも
ほしみどりついとぐ世ごろおいどのふいよがしこの
こおきつ・さるがしまの間にてりのどやうなる岩の佐ま
づまふ・あえぬ・ゆうしてて・日もいとも光りいとぐおも
ひうびのひてい・ものの物としてなどうもうえまして
う紀人はんせどや神の形みどりのなどめふ
まさふふる紙・こうひし大殿ふまちやてのふとを・む
きうびて・から・こうぞうにてりおやいるとあびおんば
おれどもいとふあくうちやつしてぞおいる・例の中

れいでほせうそこやのつかうあびしかうど
きをおくにうにてせのつとあ・ぞうにがうぶんぶ・のわ
どふあさうあ・ひまで思たりへちりぬまどこうひち
みぶりごうちれあんどうらうてたしちかうもえこ
じうきはうまびみづうはえやのうさせぬをそこ・よう
し紀をまもはうぶ・ぞうぶうこはうまものどうふ
きうえうさせはんんとやあ出・れひうふあえ・しれ
ちもむとふいとなうちまじうおびしまもんうくもとや
のひて・世みちをおまんうのうかうてはぬ・ちそいと

かつきるこだかをとる。かぶかぶかぶかぶ。ぬこ。ぬ。
ばしこと。手ごろといふぐらふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。
こと。御ぞ。ぐ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。
せ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。
やこ。人。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。
ぐ。ぐ

をとゝ思ひのを。えーるば。やうや人をとゝ。ふとうごで
のやうふのうちまきひろいとまぢうゝ。女えんもむ
くつきうゝ。ぬるゝ。ぬるゝ。ぬるゝ。さもぐふようそたぐうゝ。年ごろ
ゆゝ。ぐるゝ。のひぬるゝ。ばむぎふ。ぬ人乃つまきるゝん
やうに。きうゝ。ぐうゝ。ぬるゝ。ぬるゝ。ばゝや。

あふうゝとゝ。ぬやなゝかあそ。ぬべきみぐるゝやうそ
のぬぐゝ。ぬるゝ。ぬるゝ。ぬる

まよくもてまづえんでこそら思ひのうちのうたのびづくれば
里ぬるけぶりをいとようゆめもせぬ佛をうひのい
ひもてびるつゝ行てふれてうえかしきふ女もうたれ
と歩びしもうゆしじれきふしもそうぬをから
うゆやふくれるゆきてえんづうとてれ
ぬるぬぬ風をやくうふうもゆて恋いさゆけゆくうど
ゆうしもけるぐゝあて時ゆく月新もそゝれ
きやうるもしばうゝれるみどゝれきもをさ
しへぶてゝからそをゝるやうをそひふ人

ぐゝかられうをとをきれとうてみるさゝをぎき
てとろうゆゝぬゝかゝのぐゝれとくせのわどを
女をとぶゝうゝくうをくゝをゝうおばゝをてあ
まゆうて人をきゝふうをゝくゝわぎれきゝれさ
ぶゝふ人をれ思ふんわども志ぬぐうう量れくをれる
ゝうかゆう人の恋いひもかゝをあき芸ふのをうきく
かうぐゝ紀名やゆをいでもゝうかくおぐしみぎを
つゝあぐたうをとゝふゆるぐふくを見ごひてうちを
きぬ出をゝをんぐるゝうえれひゝおうれび

袋とおぼえぎきえのやとおるべしいざこれもの
よのなかのひとをうれてはてはうちすてぬるか入
うきの月いとんづそくかはそうり
かたるまもそうかきまくふかたりかな
ゆるまもの歌の月いづれは流れとやえれへど
おぐろきれ月よりかべもの歌乃すめる月
をとをとふえまし紙そはぞりうづきてこんもやうを
さねをこまやうふれいうかうひおきて出のみ
こそ行ゆうもゆうしばるわどのうきを

しれも同じふるらんせばるむいみしきんまどひ
もはこしハ思ひのどもむるやうもはまし波なのまり
うもいとれはふるんそせちかくいぶ
なひやまもいとはめくそづりふしどこし
ねまも出のうり時ゆくそそしきく
てこかくまぶうしはへるゆまそれなどなのくまで
うういをおのてふらうこびなとんふうまほどのはる
ぐさの月新ふぶぐ出みこうぶるかへめなど
いそむうれく行ゆるそぞとんゆるふとぐはんと

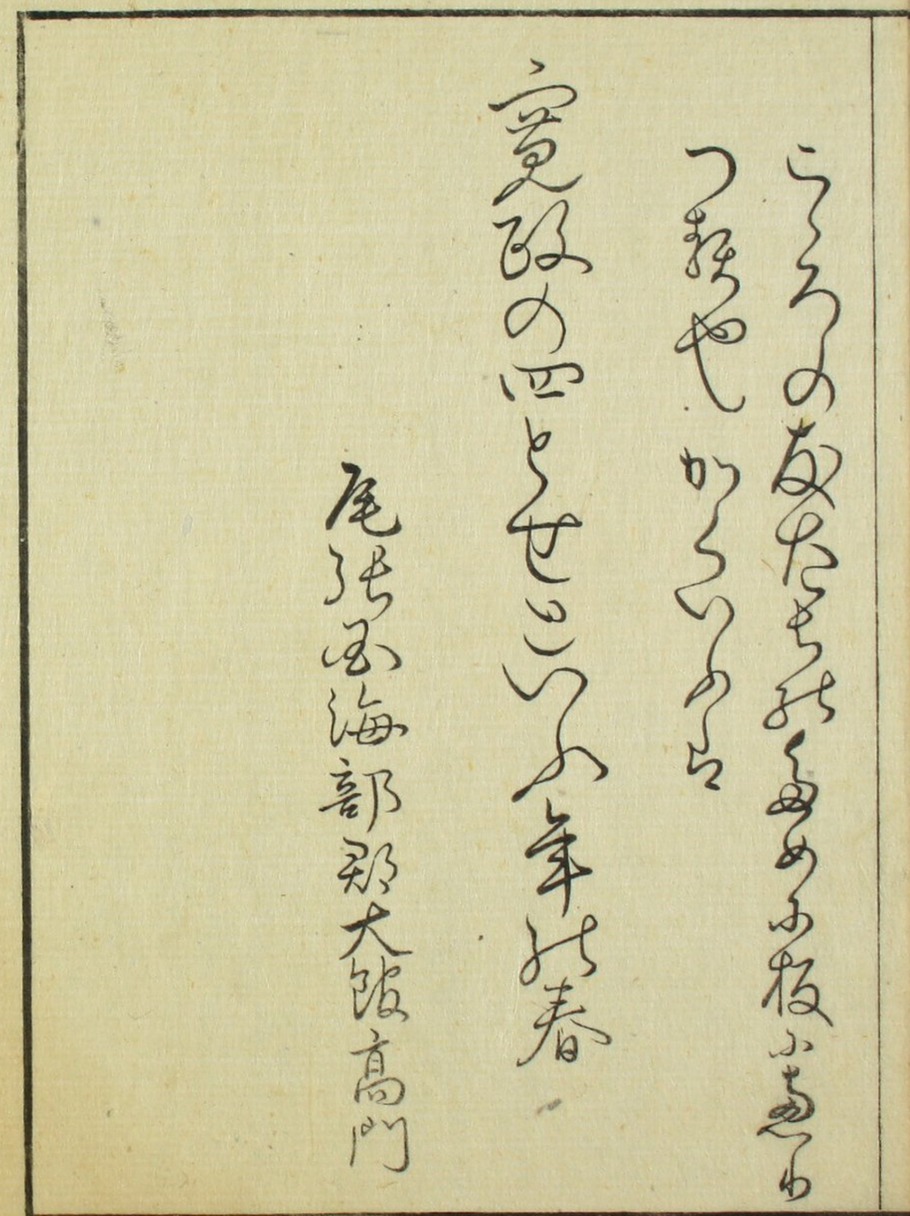
まりて、あかいでがてふやまとひのみわどの御使の人と、
ことづけをきさ[illegible]ぬ、そのうさ
つるもんなきてしく、ふつつかおぼされどなのみが
ちふけまし、おぶ[illegible]ん乃ほどもい
とわしく、かりもとぶ法のえをかきかくむと
おぼしかへして、なほ[illegible]ぬわどの御ぐ[illegible]乃ほ[illegible]の
まぎれふ[illegible]て出のあとぞ。

三の日　神[illegible]おきしかさのこぶをうせ
行ふ[illegible]乃ぶ乃ふまつ[illegible]

八の日　ちたつ風ふもてを
日の日　ちのとのもを
十の日　長やを人を

神ひぎてきまびしあめこわをとる
きりりの風やうらん
おきもせず神もせぎる夜あうして
ちのとのもをてるぐをうし紀
あをびてをひぬるばまちのよの
わぐやし人をつ[illegible]おもはん

世のうら原の物語ふ六條院の御
ものもしめの見えきあるもしわら
紅屋大人のかたのあのふ成
まの神ひ[illegible]ちやのをの[illegible]成
おのまをいるみうひもあめ出て回し



尾張名古屋書肆
東壁堂製本畧目録記

畫譜繪手本之部

北齋漫畫	十五	金氏畫譜	一
北溪漫畫	一	英勇畫譜	一
北雲漫畫	一	浮世畫譜	三
琉林漫畫	一	英泉畫譜	一
蕙齋兼畫	五	一筆畫譜	一
文鳳兼畫	一	福善齋畫譜	五
神事行燈	五	浮世畫手本	一
富嶽百景	三	初學畫手本	一
北齋畫譜	三	武勇魁圖會	二
		狂畫苑	一

百人一首之部

艶玉百人	一	永樂百人	一
花蝶百人	一	棲鳳百人	一
蓬莱百人	一	今様百人	一
吾妻百人	一	錦葉百人	一
同寸珍本	一	麗玉百人	一

和書之部

本居宣長翁像 一
地名字音轉用例 一
源氏物語手枕 一
天祖都城辨〻 一
御遷幸長哥 一
歷朝紹詞解 六
古今集遠鏡 六
美濃乃家苞 八
古事記傳 四十
同 目録 三
神代正語 三
新古今集抄 五
詞玉のひ合鏡 二
八日ゝ日記 一
花のえ〻美 一
面をみの鏡 二
萬我の比禮 一
尾張廼家苞 九
江戸職人哥合 二
冠位通考 一
消息案文 一
熟田縁起 一
伊勢物語 一
將棊之部
將棊道標 一
同指南車 一
同名家友 一
同金襖 一
同階梯 二
同鷲拓 一
同自在 二
碁経之部
碁経奕範 二
碁経奕筌 二
碁立手談 一
神壽後釋 二
玉勝間 五十
直毘靈 一
葛花 二
萬葉集畧解 三十
同 目録 二
後撰集新抄 五十
同 別記 一
三代調類題 六
詩集之部
日本詠物詩 三
暢園詠物詩 一
蒙求標題詠 一
金城白湯集 一
三野風雅 五
先友詩抄 二
寒林刪餘 一
晞髮偶詠 一
日下新詠 一
畸人詠 一
金山稿 二
誹書之部
俳諧雀芝集 一
同 五七集 五
枇杷園發句集 二
同 後編 二
同 七部集 十
同類題發句集 二

經書之部

群書治要 四七
孝經鄭註 一
同 指解 一
劉向說苑 五
同 纂註 十
同列仙傳 一
服膺孝語 一
世說音釋 五
左傳蒙求 二
物數稱謂 一
律數楊榷 二
今世說 一
傳子 一
六論衍義大意抄 一
同 羊公帖 一
徂來大曆帖 一
廣沢樂得帖 一
夫子廟堂碑 一
朱子風雪帖 一
宋七君子法帖 一
歐陽詢九成宮 一
早見道中記 一
神術極秘卷 一

石刻法帖之部

子昂要雇帖 一
同 大江帖 一
玉積通考 三
點竄指南録 五
開運塵劫記 一
新選塵劫記 一
永樂塵劫記 一
筭法立夫之錦 三
周髀筭經圖解 五
同 國字解 二
萬宝大通考 一
早引相場帳 一

从翁茶史 二
東坡自我帖 一
筭法之部

大學參解 一
論語參解 五
同歸去来詩帖 一
四書片假名附 四
董其昌天馬賦 一
文選李善註 十
同 衆鳥帖 一
星渚堂對問 一
同 秣陵帖 一
毛詩國字辨 十
九疑山碑 一
牧民忠告解 一
郭有道碑 一
千字文約說 一
陋室銘 一
女い可先 一
敬之字 一
常語藪 二
韓文起 十
十躰千字文 一

醫書之部

傷寒論持解　五
同　正文　一
醫聖堂雜話　一
醫家千字文　一
妙藥手引草　一
本朝水種方　一
延壽養生談　一
養生要論　一
内外要方　十二
醫事古言　一
方書摘要　五

手本物之部

猴山千字文　一
同書通案文　一
同書札法帖　一
同四季文集　一
同嵯峨名所　一
同江戸川用文　一
同四季假名文　一
同年中帖　一
同清風帖　一
同乞巧帖　一
同詩哥帖　一
同私用集　一

大橋遺帖　一
同改年帖　一
同池凍帖　一
同今川帖　一
同書用集　一
同當用集　一
同書札集　一
同新消息　一
同初學手本　一
同假名手本　一
同風月往来　一

物品識名　二
同　拾遺　二
吐方撮要　一
蘭藥鏡原　三
醫家日記　一
的治療方　一
経穴秘授　一
藥品考　一
提耳談　五
温疫論　一

同明衡往来　一
同商賣往来　一
同江戸往来　一
同江戸名所　一

長松貴札帖　一
長雄書札集　一
荒木今川状　一
同　赤壁賦　一
行成朗詠　二
空洞書翰　一
尊圓親王古今集序　一

同筆用集　一
同尺一集　一
御家書札文海　一
同早速千字文　一
同當時用文章　一
同永樂用文章　一
同自在用文章　一
同永代用文章　一
婦女用文章吾妻錦　一
同上紙　一
二節詩哥撰英　一

佛書之部

圓光大師御傳畧賛　二
菩薩戒童蒙談抄　一
釈迦應化畧諺解　一
永平道元行状圖　二
観音施無畏圖　一
現生護念之圖　一
宗門畧列祖傳　四
圓戒琢磨訳　一
稽古御和讃　一
白隠施行哥　一
釜斯幾　一

字引節用之部

満字節用錦字選　一
早字節用集　一
小本　一
真字附　一
大全　一
手紙早引集　一
天文中星風雨考　一
天文候鑑　一
晴雨管規　一
晴雨考 年々出板　一

袋入赤本之部

松緑高砂話　一
天竺徳瓶譚　一
今昔小町譚　一
昔語丹前風呂　一
先讀三國小女郎　一
朝茶湯一寸口切　一
却説浮世之助話　一
戀女房讐討双六　一
一對男時花哥川　一
同　後編　一

西國三十三所観音圖　一
同　順禮哥　一
同　畧縁起　二
閑居忘草　二
唐士談語　一
十善戒法語　一

御經之部

心經和訓鈔　一
高王観音經　一
因位和賛　一
菩提和賛　一
因果經　一

年中暦講譯　一
永樂古狀揃　一
同　假名附　一
初學古狀揃　一
同　假名附　一
永樂庭訓往来　一
同　假名附　一
永樂大雜書　一
古錢價録　一
易道早合点　一
人相早合点　一

濵の真砂石川草紙　二
其匂繪賊傳　二
躾草娘庭訓　二
中臣祓正義　一
教訓伊呂波哥　一
小謡断金集　一
道戯縁起　一
永樂大雜書　一
煎茶早指南　一
木石居煎茶訣　二

女今川貞操鑑 一
萬宝年代記 一
通俗西湖佳話 四
繪本女今川 一
幸代調法記 一
同庭訓往来 三
燒物出所 一
同咲分勇者 二
松月堂百瓶 三
同曽我物語 二
秉穂録 四
同大江山 二
立花當用集 一
彼此合符 二
同義経記 一
大日本國郡全圖 二
同忠臣蔵 一
諸禮大學 一
三河國全圖 一
同失的心 一
美濃國全圖 一
同狐嫁入 一
四季獻立集 一
同名古屋於妃 一
同公時一代記 一

尾州名古屋本町通七丁目
永樂屋東四郎藏板

發行書林

江戸日本橋通壹丁目 須原屋茂兵衛
同芝神明前 岡田屋嘉七
大阪心齋橋筋北久太郎町 河内屋喜兵衛
同心齋橋筋安土町南江入 河内屋和助
京都二条通衣ノ棚角 風月庄左衛門
同三条通寺町西江入 丸屋善兵衛
加州金澤上堤町 松浦善助
尾州名古屋本町通七丁目 永樂屋東四郎